

## 1925年北但大震災と防災教育

阪本真由美\*(兵庫県立大学)・松井敬代(豊岡まちなみ連盟)・菊池義浩(兵庫県立大学)

### §1. はじめに

1925年5月23日11時10分頃に兵庫県但馬地方を震源とする地震が発生し、兵庫県城崎郡豊岡町、城崎町、港村など(いずれも現豊岡市)に大きな被害をもたらした(以下「北但大震災」)。この災害は、学校管理下において災害対応が求められた事例であった。本論では、震源の最も近くに位置していた港東尋常高等小学校(港東小学校)に保存されていた、小西繁吉校長による「大正十四年五月廿三日北但震災記念寫眞帳並震災實記」を中心に、当時の学校の災害対応体制を把握するとともに、学校の取り組みを防災教育とのかかわりから検討する。

### §2. 港東小学校の災害対応

北但大震災による城崎郡の学校の被害を表1に示す。城崎尋常高等小学校(城崎小学校)は校舎全焼、豊岡尋常高等小学校、港西高等尋常小学校は校舎が全壊し、校舎倒壊により児童が犠牲になった。

表1 城崎町・港村の学校の被害状況<sup>(1)</sup>

小学校名	被害程度	犠牲者数	
城崎尋常高等小学校	全焼	5名	男子3名、女子1名、補習科女子1名
宗々浦尋常小学校	全壊	0	
三山尋常小学校	小破損	0	
豊岡尋常高等小学校	大破損	6名	男子3名、女子3名
港西尋常高等小学校	全壊に近し	6名	男子3名、女子3名
港東尋常高等小学校	大傾斜	0	

港東小学校では、第4時限の授業始業から10分ほど経過した時に地震が発生し校舎が傾いた。当時の様子について小西校長は「学校校舎は動揺甚だしく為に傾斜す。職員はこの間沈着にして、而も勇敢、授業中の児童を全部外に出し、観正寺広場(安全地帯)に避難せしめ、幸い一人だに犠牲者をささず」と記している。教員とともに児童は校庭に避難し、安全な観正寺広場に避難、その旨を保護者に連絡した。保護者が迎えにきた部落(三原、畑上、気比)については保護者へ児童を引き渡し、道中が危険という情報があった田結部落については教員が引率した。

港東小学校の記録には、教職員が学校の災害対応のみならず地域の支援に尽力した様子が記されている。村に医師がいなかったことから、地震後に教職員が救護団を設置し、被災者に応急処置を実施した。児童を保護者に引き渡した後に臨時の職員会を開き、御真影奉安方法、救護班の組織、学校を当分休校にする、校舎については村と熟議の上処置、職員勤

務(毎日勤務、児童家庭の状況視察、校具の整理補完、一般民の救護)などが定められた。夜は職員が交代で夜警にあたり、校長は消防団や駐在所巡査と部落を巡視した。学校は31日まで臨時休校となり、6月1日に天神の森にて林間学校を開始した。

港東小学校では児童の死亡・負傷はなかったものの、自宅の被災状況は深刻であった。地震時の在籍児童数380名(男子195名、185名)のうち、住宅被害は全焼3名、全壊268名、半壊111名、父又は母死亡9名、家族死亡9名、尊族重症20名に上り、6月17日時点で7名が転出した。地震が児童の心理にどのような影響をもたらしたのかを把握し、指導を検討するために「大震災火災に関する児童の精神調査」が行われた。調査項目は以下の通りであった。①地震後、一番恐ろしかったこと、②嬉しかったこと、③悲しかったこと、④有難いと思ったこと、⑤可愛そうだったと思ったこと、⑥今いちばん困ることは何か、⑦地震や火事は防げるか、⑧どんな事をした人をえらいと思うか、⑨地震の時、人の物を食べたり使ったりはどう思うか、⑩地震からどんな考えになったか。

### §3. 地域復興における教育復興の重要性

港東小学校の事例からは、学校が地域の災害対応において中心的な役割を担っていたことがわかる。城崎町では、西村佐兵衛町長が温泉復興とともに教育復興の重要性を訴えた。地震からわずか5日後の5月28日に城崎小学校はテント校舎で再開し、町長は児童を通じて父母に覚醒するよう熱弁をふるった。城崎小学校では6月26日にバラック校舎が完成し昭和2年12月に吉田享二早稲田大学教授の設計による鉄筋校舎が完成した。鉄筋校舎は兵庫県内でも珍しく、学校再建にあたり耐震・耐火性も考慮されたことによる。また、教育の質を確保するために、1学級の児童数を増やさないよう教室面積は通常より小さく設計された。北但大震災以降、94年間にわたり城崎町の学校では北但大震災に関する教育が継続して行われている。なお、北但大震災が起こった当時、日本の学校では「地震」が教えられていなかったことを今村は指摘しているが<sup>(2)</sup>、城崎では、北但大震災を機に学校安全の確保とともに学校教育に震災学習が導入されており、日本の防災教育の歴史において先駆的な事例といえる。

#### (参考文献)

- (1)城崎小学校:城崎小学校百年史, 1978年
- (2)今村明恒:地震に関する一篇を尋常小學校の過程に加ふるの議, 地震, 第1巻第9号, 1929年 pp645-655